



「学校は苦行、難行を押しつけるところか」
学校教室へのエアコン設置を迫る

教室に冷暖房を！ 子どもたちとの約束です

あと一歩

市議に立候補するとき、教え子たちから「先生、絶対教室に冷暖房つけてね!」と託されました。冬は震えながら、夏は「火であぶられるように暑い」実態を議会で伝え、文科省の基準温度（30度以下、10度以上）にも反している実態をつきつけました。

初めは「水筒でいい」「衣服で調整すればいい」と何の対応もしなかった市も、こうした追及に押され、温度調査や扇風機設置をするまでになりました。

「扇風機で温度は下がったのか」と議会で追及すると下がらない実態が明らかに。もう言い訳できません。あと一歩、実現まで全力です！

東京23区や川崎市、
京都市では実現済み

教師 18年の経験いかし、教育の問題



なんで
エアコン
ないの!!

先生、もっと
話ぎいてヨ

初質問は「少人数学級」 小4、中1までひろがる

私の議会初質問(2003年)であり、ライフワークです。はじめは「市独自では困難」という冷たい答弁でしたがその後他の政令市の調査や財源も示してくり返し要求し 05年について実現。現在小1～4、中1年まで拡大、さらに拡大へがんばります。

また常勤講師の採用を求め、市は当初「困難」と拒みましたが、今年度から実現しました。

に情熱的にとりくむ

市内の中学で社会科教師
をしていました



教員時代、荒れを克服してようやく就職したのに事故死した教え子、さびしさの裏返しでバイクで暴走する生徒たちに接してきました。

そのたびに一人ひとりにもっと寄り添える教育ができればと痛切に感じていました。また、多くの子どもたちの困難を前に、鬱や体調不良で倒れる教員仲間も後を絶ちませんでした。だからこそ私は教員の頃から少人数学級の運動をすすめて、市議になってからも追求してきました。

教師時代からの私のテーマです